

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500887		
法人名	医療法人 社団 田口会		
事業所名	グループホーム コアラ		
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1		
自己評価作成日	平成25年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成25年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者様1人1人の対応が細やか。ご家族の協力・理解を頂いている。
 ②介護経験10年以上の職員が4人/7人。全員正職員でチームワークが良い。
 ③季節ごとの飾り付けを行い季節感を味わって頂くようにしている。
 ④個人新聞を発行し、ご家族に渡している。
 ⑤栄養士が作成したメニューに添って食事を提供し、毎月ご家族にメニュー表を発行している。
 ⑥設備が充実している(プラズマクラスターイオン ジェットパーフェクター イルミネーション 業務用乾燥機 ドラム式洗濯機2台 スプリンクラー 浴槽が広く、リフト浴対応になっている 防火設備)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の生命を危険から守る為、防災訓練は消防署立会の定期的な訓練に加えて、毎月自主訓練を行い、その日の利用者の状態と訓練の様子・反省点など報告書にまとめている。その記録には利用者の会話も入り、利用者の変化がわかる。毎回、避難口や出火場所を変え、火災や地震等に対する対策を真摯に行っている。利用者の生命を大切にしている姿勢がある。また、利用者の身なり等には清潔感がある。毎日更衣を行い、その人の尊厳を大切にしている現れである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりの意見、思いを聞き話し合い目標を一年、1ヶ月毎に掲げている。意識付けの為にいつでも職員の目に留まるよう、事務所、玄関に理念、目標を掲げ毎月目標の達成率の振り返りを行っている。	契約時には個別ケア対応をさせてもらうことやグループホームの説明を理念に沿って話している。理念に沿ったサービス提供のために、理事長・事務長・職員が年間目標・月間目標を掲げ、振り返りができるように掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の行政センターにコアラ新聞を毎月置かせて頂いている。地域のボランティアサークルを呼び交流を深めている。	地域の行政センターの利用やサークルの人達が見学に来たりしている。「コアラ新聞」を置かせてもらっている。自治会に加入しているので回覧板が回ってくる。廃品回収に参加している。今後は夏祭りを駐車場で実施して地域に見てもらえるようにしたり、仲良し保育園との交流を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、地域の行政センターにコアラ新聞を置かせて頂き、施設の様子、出来事を地域の方達に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月ごとに開催している。会議には、市役所職員、民生委員、地域代表、利用者様家族に参加して頂き外部評価の報告、実地指導評価の報告、施設での様子等を伝え情報、意見交換を行っている。意見を伺った際は速やかに対応しサービスの向上に努めている。また欠席された家族には会議議事録を配布している。	併設の事業所と合同で、定期的開催され、家族・地域代表・民生委員・市担当者が出席して事業所報告を行い、時季のトピックス(感染症等対策等)を提供し意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外でも市役所職員とは、その都度関わりを持ち情報交換を行っている。	事業所の報告で出向いている。管理者として3年半になり市の職員とも顔見知りになれ意見交換ができるようになってきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないが必要な時間だけ玄関施錠する事を家族に説明し同意を頂いている。また職員は研修に参加し意識を高めている。日中はセンサーを利用し、利用者一人ひとりのリスク、行動パターンを把握し安全に生活出来るように心がけている。	19時から翌朝8時までは施錠しているが昼間は開錠している。家族に説明している。「身体抑制廃止推進員養成研修」に参加し、報告書で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から職員の言葉、態度、見過ごす事が無いように職員同士、注意を払っている。また、知識を高める為に勉強会、研修に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は知っているが今まで必要な利用者様がない為勉強不足な面があると思われる。今後勉強会、研修に参加し学ぶ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に契約書、重要事項説明書を管理者、介護支援専門員で説明し同意を得ている。家族の不安、疑問を伺い安心して生活して頂けるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とこまめに連絡を取り合い不安、疑問を伺うように努めている。また、言いつらい事がある場合は玄関に意見箱を設置し対応している。	電話や面会時に利用者の状態を報告している。年2回満足度アンケートを実施した。「お粥がまずい」という声があがり改善した。声かけの仕方、カーテンの開け方等意見が出た。職員は申し送り時に共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員はこまめに連絡を取り合っている。また毎日、代表者は施設に連絡し情報収集を行って職員の意見提案に耳を傾けサービスの向上に努めている。	管理者は職員と会議時やメール等で情報交換をしている。管理者は事務長へ職員からの希望等を毎日報告している。異動や退職等希望を聞かれ、働きやすい環境整備に努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者はこまめに連絡を取り合っている中で個々の職員の情報を共有している。代表者は管理者、全職員とコミュニケーションを取り、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に多くの職員が参加している。受講した職員は報告書、研修資料を提出し全職員が同一の知識を得られるようにしている。また月1回のコア会議の時にも勉強会を設けている。議長が勉強議題を考え全職員に発信している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会開催の研修に出来るだけ参加している。その中で日頃の仕事の悩みの意見交換、他グループホーム見学研修に参加し交流、サービスの向上に活かしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思い、不安を聴く機会を設けじっくり話を聞き、安心して頂けるように努めている。不安や要望に対して毎日の申し送りの中で話し合い、速やかに改善、対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にこれまでの経過や家族の思いを管理者、介護支援専門員は時間をかけ伺っている。思いを伺う事により少しでも安心をして頂けるよう、また今後、相談しやすい環境作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の不安、心配事に対して介護支援専門員が相談を伺い、出来る事は速やかに改善対応している。また必要があれば他の施設サービスについて説明するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が人生の先輩である事を念頭に置き、支え合い、希望に添える生活が出来るような環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とこまめに連絡を取り合い日々の施設での様子や体調、状態の報告をしている。毎月受診の付き添いを家族にして頂く事により情報の共有が出来ていると思われる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前暮らしていた住まいの近隣の人、知人がいつでも気軽に面会が出来るようにしている。	女性利用者が多いので相性等考慮して仲間作りをしている。職員は利用者に馴染んでもらえるように努力し、職員も利用者に馴染むことを伝えている。毛糸を用意したり、「歌が好き」と声があげればCD等用意している。面会時間や面会時の食べ物の差し入れ等制限は設けていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で談話したり、一緒に過ごせる場所を設けている。また、レクリエーション等を行う事で顔なじみ、仲間意識を持って頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、他施設入所後や病院入院後の生活、健康状態を伺い、今後も困った事などがあれば気軽に連絡して下さるようにお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様と日頃の会話から本人の思い、希望を聞くように耳を傾けている。言葉として表出しない希望や意思の把握に努めている。	家族からは面会時に聞いている。職員は早目に心や体調の変化を見逃さないように「いつもと違う様子」を早期発見として申し送りで共有している。相性等も考慮しながら、昼・夜勤帯の利用者の発した言葉の状況を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に時間をとって丁寧に管理者・介護支援専門員により、本人や家族に今までの暮らし方、経過などを伺い情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を毎日把握し介護記録に記入する。全職員と情報の共有をしている。毎日の申し送りや会議で話し合い、統一したサービスを提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様本人・家族の思いや希望を伺い、それに対し職員同士で意見交換を行う。アイデアを出し合い介護計画に反映させている。月に1回モニタリング、計画の見直しは3ヶ月に1回行っている。	月に1度のモニタリングを行って、随時と3か月に1度の介護計画を作成している。家族に(案)を提示し説明し、その後本プランを作成してご了承をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に介護記録に記入、受診結果は受診ノートに記入、と全職員が情報の共有をしている。毎日の申し送り時や会議などにて提案し実践、実践しての改善点の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族に応じてその方に合ったサービスを提供している。移動手段確保が困難な方は通院や送迎の支援。金銭面で困難を感じている方には物品を持ち寄る等の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動しているボランティアサークルの方に来所して頂き、踊りや歌などを披露してもらっている。楽しめる時間を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、家族から希望を伺い選択して頂いている。また、受診の順番取り、必要な場合は送迎の支援をしている。家族同行の受診が不可能な時は職員が受診付き添いをしている。	入居時に城山病院が協力病院であることと選択できることを説明している。協力病院・かかりつけ医・歯科医院の必要時の受診支援を事業所で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には受診記入表を作成し日頃の情報、気がついた事を記入し報告している。また急変時等はかかりつけ医院、協力病院にて指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はサマリーやその都度、利用者様の状態を報告している。ほぼ毎日面会に伺い病院関係者との連携が深められるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ向けて重度化の際の本人、家族の希望を伺っている。またアンケートを募り、それに基づいた面談を行い、出来る限り希望に沿えるようにしている。	事業所でできることとできないことを説明して、基本的に行わないことを契約時に話している。本人や家族に終末期についてのアンケートを行ったところ、多くの家族が事業所での終末期を望んでいた。方針はまだ作っておらず、今後の課題であると承知している。	事業所で説明している内容等を方針として早めに作成することをお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故についてのマニュアルをすぐに目に入る場所へ設置し全職員が対応できるようにしている。救急の講習にも参加し対応できる力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の消防署の協力を得て利用者様、家族、市役所職員、民生委員、地域代表、全職員とともに昼・夜設定を決め避難訓練（避難経路の確認、消火器の使い方等）を行っている。また、毎月1回自主避難訓練も行っている。	定期的な訓練は昼夜想定・利用者・職員・運営推進会議のメンバーが参加して行われ総評と指導を受けている。その他毎月1回自主訓練をしている。備蓄は3日分の食料品とおむつの用意が本部にある。本部では井戸を掘り水を確保している。スプリンクラー設置済み。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人生の先輩である事を大事に考え、それぞれにあった対応、声かけを行うよう努めている。職員が権利擁護の研修に参加し会議等で取り上げ、知識を全職員が共有できるようにしている。	職員同志で気付いた時に声をかけ注意し合っている。筆談を取り入れている。男性職員が女性利用者を介助する場合、最初に「男性でも良いか」と聞いている。お金を管理している人がいる。ペース食の人には何を食べているのか献立写真で説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の利用者様の表情、行動、会話に耳を傾け情報収集をしている。本人の思い・希望に沿えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、生活ペースや体調に合わせた支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり好みの身だしなみ、おしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には調理や準備をその人の力で出来るように工夫し職員と一緒にしている。ペース食の方にはメニューが分かるように写真をテーブルに置き、職員が説明しながら食事して頂いている。	献立は栄養士が作っている。利用者の食べたい物を参考に季節感を出してもらっている。お節料理、サクラ餅やお誕生日には手造りの料理を作っている。10時や3時に提供する飲み物も種類を揃え手作りのおやつを出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量などを介護記録に記入し把握している。バランス良く摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの身体状態によって歯ブラシ、口腔ガーゼ、舌ブラシ等を使用し清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄時間、有無、量等を記入している。一人ひとりに合わせた排泄パターンを把握している。	おおまかなチェック表があり、時間と声掛けでタイミングを見計らい誘導をしている。自立者の確認をしている。夜間帯はその人に応じた支援(時間誘導・見守り)等をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分を摂取して頂くようにしている。また朝食前やおやつの時間等に牛乳や牛乳ゼリー、乳製品の提供をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調の確認を行い入浴時間の希望を伺いながら支援している。入浴が楽しめるように音楽を流したり、入浴剤を入れ楽しんで頂いている。	入浴には同性介助を心掛けている。毎日入れる体制がある。基本的には火・木・土が入浴日だが、入れない人は違う日に振り替えている。時間は午前中と午後3時半過ぎまで支援し、希望で音楽を流し、気の合う人同士で入ることもある。	入浴日の設定を外していつでも入れる体制を作ってほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の表情、体調変化を見逃さず、疲れ・体調が優れない時などにはいつでも休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬ファイル、受診ノートがある。全職員が把握できるようにしている。服薬時には日付、名前の確認を行い飲み残しがないように口腔内の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活力を把握し、その方の出来る事や得意な事を行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調に応じて、日光浴をしながらお茶を飲まれたり、ゴミ出しやガソリンスタンドに一緒に行く等をしている。	日常的には散歩に出かけ、天気が良いと花を見たり、草むしりをして外気に当たっている。桜の時期にはお茶セットを持って出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがある場合には、近くのお店と一緒にいき、買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時、家族や親せき、知人との電話のやり取りが出来るように仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう利用者様と共に作った工作などが廊下、リビングに飾ってある。	廊下には行事の写真や作品が飾ってある。共用空間からは庭の作物や花が目に入り、鳥が訪れ、利用者を楽しませている。清潔感と開放感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビングに一人用の椅子も置きひとりの時間もすごせるようにしている。また、リビングでは利用者様同士の会話が弾むように席の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や使い慣れた寝具、テレビなど馴染みの物を持って来て頂き使用している。	整理ダンスとベッドは事業所で用意している。鏡が各部屋に取り付けられ自分の姿を見ながら、おしゃれができる。枕や毛布等日常使い慣れた物が整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせ車椅子、手すり、杖を使用して頂いている。また居室へ行く際に迷わないよう各居室前には大きな字で名前、利用者様好みのシールを貼って目印にしている。		